



# 記者手帳

世界最大のインジウム  
需要最大国だが、完  
全に輸入に頼り、約  
6割は中国だ。イン

で「都市鉱山」とも呼ばれている。日本で名付けられた「都市鉱山」の埋蔵量は、日本が世界一の多さだ。金は約6800トン（世界の現有賦存量の約16%）、銀が6万トン（同23%）、世界で獲得競争が激しいインジウムは1700トン（同38%）、コンデンサに使われるタングスタルが4400トン（同10%）などとな

り、電子部品に多用される金や銀、ハンダに使う鉛の4種類は、最大の天然資源賦存国よりも。資源化が可能であれば世界有数の

台とすると、1台の回収コストに50〜60円もかけることになるといふ。費用対効果を抜本的に変えていかないと「都市鉱山」はできないとの

## 世界の都市鉱山が集まる

希少金属（レアメタル）を巡る国際的な関心が高まっている。液晶パネルやプラズマテレビの急速な普及と画面の大型化に伴い、ITO（インジウム・スズ酸化物）の需要が活発化した。日本は世

ジウムの廃製品からの回収システムは、まだ確立されていない。携帯電話をはじめ電子機器類に利用されているレアメタルは、廃棄された段階

量の約16%、銀が6万トン（同23%）、世界で獲得競争が激しいインジウムは1700トン（同38%）、コンデンサに使われるタングスタルが4400トン（同10%）などとな

り、電子部品に多用される金や銀、ハンダに使う鉛の4種類は、最大の天然資源賦存国よりも。資源化が可能であれば世界有数の

指摘もあるが、世界に誇れる回収技術が日本でも生まれ、育ってきた。世界中の廃製品に含まれた「都市鉱山」が日本に集まる可能性を秘めている。（※）